

浜田市周辺の中山間地域では、米軍機の低空飛行訓練が断続的に続き、日々、爆音や事故等の不安に悩まされています。特に「エリア567」における訓練空域にある島根県浜田市旭町の「島根あさひ社会復帰促進センター」が爆撃訓練（模擬対地攻撃訓練）のターゲットとされているのではないかと思われる程、その周辺は騒音被害が頻りに繰り返され、隣接する「あさひ認定こども園」上空では、6月27日に開所以来の一番大きな飛行音により、多くの子どもたちを恐怖させたのに続き、8月2日にも長時間にわたって轟音が鳴り響き、多数の子供たちが耳をふさぎ、怖いと震えるなか、怯えながら生活しています。そのエリア内には学校・保育施設をはじめ、介護施設や医療施設なども多数あり、病气療養中や育児中の方、乳児や子供、高齢者にとって、突然聞こえてくる轟音は、極度のストレスを受け心身や生活に悪影響を与え続けています。

また、先般11月20日（火）10時50分から11時40分頃にかけて特に当市弥栄町において、旋回するような形でかなり大きな音を立てて通過を繰り返し、誰もみ飛行をしていたとの目撃情報があり、小中学校からの授業に支障が出たとの苦情などや住民の皆さんからの「何とかして欲しい」との悲痛な訴えが多数ありました。現場より離れている旭支所屋上の騒音測定器では、その時間70dB以上の騒音を11回観測し、最大測定値は83.9dBを記録しています。

ちなみに今年の11月末までの335日間で騒音のあった日が88日間を数え、さらに50日間は午後6時以降であり、休日の飛行も17日間を確認しています。その内、騒音測定器で70dB以上の騒音を観測した日は31日に及び、最大測定値は97.6dBとなっており、平成23年11月2日以降、御基地に対し6回に亘って要望書を直接送付していますが、一度の回答もなく誠意のない対応が続いています。

貴職におかれましては、オスプレイ機を含めた訓練実態を明らかにするとともに、自国の学校や福祉施設、医療機関上空を同様に飛行された場合を想像し、日々繰り返される低空飛行訓練によって、激しい騒音被害が平穏な生活を乱している実情と、米軍機による事故に対する不安の中で生活しているという住民の心情を自分たちのこととして考え、市民生活に悪影響を与えている低空飛行訓練を中止するよう強く要請します。

2012年12月11日

アメリカ合衆国

海兵隊 岩国航空基地司令官

ジェームス・C・スチュワート大佐 様

日本国 島根県浜田市長 宇津徹 男